

(2) 教職員の人権感覚を高めるために

児童生徒の人権感覚の育成には、日々の授業等の教育活動と並んで、「隠れたカリキュラム」が重要であると言われている。「隠れたカリキュラム」とは、教育する側が意図する、しないに関わらず、学校生活の中で、児童生徒自らが学びとっていく全ての事柄を指すものである。学校・学級の「隠れたカリキュラム」を構成するのは、場の在り方や雰囲気といったものである。

人権教育が効果を上げるためには、まず、教育・学習の場自体において、人権尊重が徹底し、人権尊重の精神がみなぎっている環境であることが求められる。児童生徒を取り巻く環境の要素である教職員が、自身の人権感覚を磨き、雰囲気をつくる必要がある。自身の人権感覚をチェックし、絶えずアップデートすることで、人として成長するとともに、教育活動を充実させ、児童生徒の資質・能力の向上を図っていくことが大切である。

人権感覚チェックシート ～教職員の人権感覚を高めるために～	
チェック欄	「人権」を意識した授業づくりの視点
	一人一人の学習意欲や特性等を捉えているか。
	個の意見を大切にす等、一人一人が安心して授業に参加できる雰囲気をつくっているか。
	個の言動を大切にし、認める声かけをしているか。
	他と異なる意見や、最終的に不正解だった意見を発言した児童生徒が嫌な思いをすることがないように配慮しているか。
	見通しのもてる学習活動を設定しているか。
	自己決定・自己選択の機会を設定するなど、主体的な活動に結びつけているか。
	すべての児童生徒が意識して聞くことができる環境の中で、指示をするようにしているか。
	的確で分かりやすい指示や説明ができているか。
	文字の大きさや色分けに配慮し、1時間の学びが分かる板書になっているか。
チェック欄	「人権」を意識した環境づくりの視点
	児童生徒の学習につながるような掲示物を工夫しているか。
	作品を掲示する際に、誤字脱字や名前の誤記などに注意を払っているか。
	正しい言葉遣いや話型のモデルを示す等、教室内の言語環境を整えているか。
	一人一人の特性や、学習内容に応じた座席やグループ編成等の工夫を行っているか。
チェック欄	「人権」を意識した児童生徒への対応
	児童生徒に対して、基本的に丁寧語を使って話しているか。（「です、ます調」）
	児童生徒に対して、「〇〇さん」等敬称を付けて呼んでいるか。
	児童生徒に対して、感謝の気持ちを言葉にして伝えているか。
	児童生徒に対して、自分の非を認めることができているか。
	児童生徒が話しかけてきたとき、手を止めて聞いているか。
	注意する前に「なぜそのような行動をとったのか」要因や背景を考えるようにしているか。
	当たり前前の活動を当たり前に行っていることをきちんと評価しているか。
	給食や掃除の時などに、欠席者の机が孤立しないようにしているか。